



あきらめないで続けると楽しくなる

校長 渡邊 正博

11月24日、この日は5時間目に「金管バンド6年生引退引継式」を予定していました。プログラムには6年生一人一人の話があります。コンクールに出場する上級生を見て育ち、4年生(令和3年度)ではビデオ審査で参加したものの、活動の持続可能な形態を職員・児童で考え、吹奏楽連盟から脱退。5年生からは、地域の方々と演奏を楽しむ定期演奏会での発表を目標にしてきた6年生。下級生や私たちに何を語り、何を伝えるのか…朝から期待は高まっていました。

そんな気持ちでいると3時間目前の休み時間、校長室に「これから5年生だけでパプリカ(金管バンドで取り組んできた曲)を演奏するので聴きにきてください。」と嬉しい誘いがありました。一人一人が役割を果たそうと真摯に向き合う音に聴こえました。演奏後、「5年生だけの演奏、どうでしたか?」という担任からの問いかけに多くの子がニコツと笑みを浮かべる中で、「えらかった!」「責任いっぱい!」という声があがりました。授業後、その声の主たちに質問しました。「どうして誘ってくれたの?」「5年だけの演奏を聴いてほしかったのです。」「責任って、どういうことかな?」「6年生が引退したら、私達5年生が中心になって、金管バンドを守っていくという責任のことです。」引継式を前にした次代のリーダーたちの心意気を聴かせてもらい、とても頼もしく感じました。

5時間目になりました。式には新メンバーとなる3年生も参加し、新パートリーダーの進行で始まりました。定演(11/10)、久田見小との交流会(11/17)と3週続いたこの日の演奏は、完成系とも言える気持ちのこもった最高の作品となりました。3年間やり切ったという満足感、後を引き継ぐことへの緊張感、これから始まる期待感、いろんな感情が体育館に生まれていたと思います。

プログラムは進み、いよいよ6年生の発表です。続けてきた者しか語れない貴重な内容でした。

- ・始めたころ、練習してもうまにならない。練習もきつい。つまらない。そう思った時、友だちが一生懸命練習する姿を見て、僕も一生懸命やろうと思いました。
- ・「金管をやめたい」と思う人もいるでしょう。そう思う時があるでしょう。でも、いつか絶対に「金管をやった良かった。」と思う日が来ます。自分のペースでがんばってください。
- ・夏休みも練習があり、金管はいやなものでした。でも、2回目の定期演奏会の挑戦で楽しいものになりました。僕は金管バンドの活動から、「あきらめない」で続けると、いつか「楽しくなる」ことを学びました。
- ・僕はパプリカが好きです。みんなとパプリカを演奏していると、とても楽しい気持ちになりました。だから、大好きです。



【「ブラボー!! 6年生」】

金管バンドを通して何を学んでいるのかを子どもの言葉で教えてもらいました。そして、この活動は子どもたちの「笑顔の“もと”」になっていることを確信しました。後輩たちがどんな音を奏でるか、6年生諸君、保護者・地域の皆様、ご期待ください。

